

令和8年度研究科入学者選抜試験問題(第1次募集)出題意図、模範解答
《医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程》

出題意図

医療・看護学分野の英文を読み、英文法を十分理解し、正確な読解力と大意を把握する能力など看護学専攻大学院生として必要な英論文の読解と作成する能力および基礎的学力の程度を確認することを意図として出題した。

問1 骨粗鬆症による脆弱性骨折は、手首、股関節、前腕、骨盤、脊椎に多く発生し、患者に著しい疼痛と機能障害をもたらす。

問2 2012年から2014年にかけて実施された国民健康・福祉調査の分析によると、骨折歴のある骨粗鬆症患者は、骨折歴のない骨粗鬆症患者と比較して、健康関連の生活の質(HRQoL)が著しく低く、より多くの医療資源を利用し、直接医療費もより高かった。

問3 高齢の親族に対する正規職ではない介護は専門職には及ばないし、(仕事ではないので)報酬もない。

問4 骨粗鬆症性骨折患者に対するこのような家族介護は日本の社会で一般的であり、日本の国家統計に基づく最近の報告によれば、骨折患者に対する家族介護の全体的な経済的負担は相当なものである。

問5 この年齢動態、すなわち日本では介護者の40%が50歳以上であることは以前から報告されており、高齢者が高齢患者を介護する事態を避けるため、骨折予防の重要性を浮き彫りにしている。